



民生委員・児童委員になられたみなさん

寺内地区

高橋利治 佐藤敏雄 三浦智子 富永朝 長山みつ 浅原七恵子 富樫明子 加賀谷耕二 小玉惇 三浦洋子 古村英悦 山田春二 木村佐喜雄 土肥良三 田村敬輔 岩山稜子

八橋地区

石川兼三 三浦シミ 佐藤テル 佐々木正信 越後屋恭子 塚田勝子 岩見美也 谷地田リコ 戸谷道子 桐生康則 石岡圭子 大越亥年生 松橋實 塩谷甲三 熊谷栄助 中田稔 佐藤芳子 岩谷文子

泉地区

富樫清弘 佐藤憲一 若松ナミ 佐藤美 木曾久勝 黒澤勲 大山純吉 伊藤弘和 子吉光夫 浅利和子 上野久明 糟谷開子 吉野育子 亀谷京子 湯浅あやめ

新屋地区

石野廣 袴田歌子 加藤傳一

伊藤一 高野トヨ 大島三代助 仙葉隆雄 高橋繁 横山秀男 本川圭子 小林春一 加賀谷重男 鈴木ケイ子 小野トシ

佐藤吉茂 大原勇蔵 菅原子工 田口克己 阿部和子 坂本絢子 伊藤祐子 池端茂子

新屋勝平地区

大塚一敏 泉谷庄一 佐藤サト 横山和子 山本功 高橋兼治 渡辺夕マ 佐々木善雄 高橋正義 鎌田通子 宇佐美富美子 中野フミ工 加藤久美 小田長政美 富岡道雄 伊藤梅子 佐藤耀子 宮腰昇 高橋理知子 渡辺栄子

太平地区

辰時芳 嵯峨成雄 加藤銚枝 鎌田諄 佐々木民久 嵯峨成子 田中重信 永井幸彌 渡辺多恵子 佐藤兆子 田村真喜子

外旭川地区

佐藤保 安西エナ 斎藤慶治 亀沢秀 小野勇吉 長澤勝子 傳ミサ子 佐藤眞佐子 高橋房 高山千鶴子 三浦和子 藤田宏 小野寺敏子 明

珍一彦 伊藤則子 三浦政三 佐藤忠雄 加賀屋行雄 中村清 津島潔 熊谷章 三浦レイ子 児玉孝子 安部栄子

飯島地区

福田克郎 船木鐘江 進藤幸 近藤貞子 筒井英水 滝城百合子 住吉洋子 保坂久悦 保坂ユキ 小松助三郎 柴田紀子 金澤幸二郎 保坂孝 赤上智恵子 浜田セチ子 大塚忠三 能登屋優子 富山君子 宇佐見芳子 鳥井悦子 筒井兼美知 保坂徳勝 保坂正二 保坂安隆 伊藤ヤス

椎川保子 渡辺裕子

下新城地区

安田正男 中川アイ子 阿部弘子 佐藤百合子 中川克巳 長谷川武雄 佐藤要 柴田初子 宇佐美眞智子 佐藤信子 柏谷勲

上新城地区

永田市右衛門 石井鉄江 大淵政子 山田聰子 齊藤孫司 辻大圓 辻匡人

浜田地区

渡辺佐久治 相原咲子 滝澤兼吉 渡部勇吉 今野和久子 塚田千鶴 相原繁 石黒節子

豊岩地区

武藤静夫 小野鐵夫 佐藤フミ 石川ツヨ 桜田清 斎藤正子

仁井田地区

厨川克巳 大泉勇二 堀井紀子 堀井ツタ 斎藤金市 熊谷重夫 成澤正夫 諏訪孝 中村恵子 坂口悦子 高橋禎子 藤田満子 佐藤フミ 榎恵美子 鈴木嘉千夫 伊藤誠 蓮沼瑞穂 藤原力ヨ子

四ツ小屋地区

塚田正 進藤廣太郎 榎秀雄 藤澤謙治郎 榎長治 長谷部鉄治 熊地妙子 三浦ミチ子 加賀長次 黒田祐一 福田貞子 腰山喜久美 田堰庄一 榎澤暁子 柳原マツ 谷口猶子 相馬弘 岡根浩造 上田和子 下田慈子

上北手地区

嵯峨福雄 熊谷悦子 熊谷かよ 松本重春 菊地俊男 馬場多美子 佐藤美智子

下北手地区

藤井蔵司 嘉藤テツヨ 嵯峨

米太郎 長谷部宣治 石塚恵美子 東海林淑子 木山美佐子 玉尾誠子

下浜地区

鈴木利作 鈴木金弥 川村十九子 伊藤正弘 今野博 石井良一 渡邊節子 大友敏子

金足地区

村井信洋 船岡徳美 齊藤俊子 宇佐美寅一 堀重一 安田夫美雄 白瀬哲雄 佐藤アヤ子 佐々木百合子 渡辺幸子 水沢富貴子 千蒲隆 奈良京 佐藤鈴子

東地区

桜井藤市 斎藤サヨ 畠山精子 谷田部則子 八柳松雄 小原照子 平良木栄治 加藤健武田則子 鈴木友子 清水ヨシ川邊俱康 平野井和子 嘉藤實 嵯峨博子 田口照子 大守富貴子 稲場みち子

桜地区

堀宏 川辺セチ 長谷川リマ 松本宗吉 尾張谷混子 田中千ヨ 保坂隆男 佐々木恵子 今田美佐子 佐々木晋太郎 滑川準治 船木敦子 手塚圭子 高橋クニ 北村敏子

大住地区

和田繁 原田秀昭 川北ミツ工 長澤千和 坂本征美 高橋一征 佐々木イネ 門脇恵美子 上村政憲 木山幸介 桐越和子 安藤久男 斎藤典四郎 佐藤重三郎 門脇利成 小松友子

寺内小地区

秦孝悦 佐藤光雄 寺田セツ子 伊藤勇 小豆島和子 畑沢美津子 今野信郎 正木一夫 穴倉正一 高橋友子 桐原敏郎 澤木かね子 武藤隆昌

郷土の歴史の集大成 秋田市史

中世史料編(定価9,000円) 鎌倉時代から江戸時代初期までの記録や文書、系図などを収録。地方豪族の栄枯盛衰、湊安東氏の統治などをつづっています。

近世史料編上(定価6,000円) 久保田城下の町民社会と武家社会、城の3部構成。家督町の記録や黒沢家日記、初代佐竹義宣書状などを収録しています。

文芸・芸能編(定価6,000円) 秋田の文芸や芸能の幅広い分野について文化史的な流れをつづっています。



市史編さん室では、秋田市の歴史に関する史料を集め、原始・古代から現代まで全17巻の秋田市史を編さんしています。

今までに「中世史料編」、「近世史料編上」、「文芸・芸能編」の3冊を刊行、来年3月には「中世通史編」、「近世史料編下」の発刊を予定しています。お求めは市内各書店、市役所地下売店、市史編さん室でござい。問い合わせ 市史編さん室 ☎(866)2249

秋田市史こぼれ話

戦国武将のゆくえ

享和元年(一八〇一)に書かれた上北手の嵯峨家文書(近世史料編下に掲載予定)から、戦国時代の武将のゆくえを追ってみましょう。この文書によると、江戸時代に上北手大山田を開発

大山田に移り、農業を生業として土着したと考えられます。その後、この地に深く根を下ろし、その血を現在まで脈々と伝えていきます。

し、長く肝煎を務めた嵯峨重右衛門の祖先は、戦国時代、太平城主太平氏のもと、家臣として活躍した嵯峨次郎太郎橋知信だつたと伝えられています。なるほど、嵯峨家にはその証拠と思わ